

団体向け

医療の質向上のための体制整備事業

パイロット募集要項（案）

2020年12月

医療の質向上のための体制整備事業 事務局
公益財団法人日本医療機能評価機構

目次

1. 趣旨・目的	3
2. 取り上げるテーマおよび指標	3
3. 対象となる病院	5
4. ご協力いただくにあたり想定されるメリット	5
5. 実施の流れ（約1年間）	6
6. 協力団体様へのご依頼事項	7
① 協力病院のご推薦【2020/12/14～2021/1/15】.....	7
② 医療の質向上のためのコンソーシアムへのご参加【2/13】.....	8
③ 最終報告会【2022年3月頃】.....	8
7. 費用	8
8. その他	8
医療の質向上のための体制整備事業 委員および部会員一覧	9

1. 趣旨・目的

医療の質向上のための体制整備事業（以下、本事業）の目的のひとつは、現場の自主的かつ継続的な質改善活動を充実させることです。そのために現在、医療の質指標を有効に活用しながら、医療の質の向上を担う中核人材を養成し、組織全体で質改善活動を促進させる支援ツール（以下、改善支援ツール）の開発を進めています。具体的には、人材養成カリキュラム・プログラムや、病院間で自院の質改善活動の内容を共有する機会の提供などが含まれます。

今回、各協力団体様からご推薦をいただく病院（以下、協力病院）とともに、改善支援ツールの検証（以下、パイロット）を進めてまいりたいと考えておりますので、各協力団体様およびご所属の病院におかれましては、格別のご高配を賜りたくお願い申し上げます。

2. 取り上げるテーマおよび指標

パイロットでは、各協力団体様において既に運用されている医療の質指標を活用します。

今回は、「糖尿病」、「脳卒中（脳梗塞）」、「人工股関節全置換術(THA)または人工骨頭置換術(BHA)」の3テーマに関する指標を取り上げます。そのうち、現場主体の医療の質改善活動を進めるにあたり、診療・ケアの向上につながると思われる指標を「パイロット適用指標」とし、各テーマ5つずつ選定しています（表1）。パイロットでは、自院のデータを用いて、これらの指標を継続的に計測しながら、質改善活動を進めていただきます。

表1 パイロット適用指標一覧 ※定義等の詳細は、「計測手順書」（別添）をご参照ください。

【糖尿病】

ID	指標名	定義	
DM-01	インスリン療法を行っている外来糖尿病患者に対する自己血糖測定の実施率	分子	分母のうち、計測期間中の外来診療において、「C150\$ 血糖自己測定器加算」を算定された患者数
		分母	糖尿病でインスリン療法を行い、かつ「C101 在宅自己注射指導管理料」を算定している外来患者数
DM-02	外来糖尿病患者に対する管理栄養士による栄養指導の実施率	分子	分母のうち、診療開始月から7か月間の外来受診期間において、栄養食事指導を実施した患者数
		分母	外来糖尿病患者のうち、診療開始月から7か月間の外来受診期間において、3ヶ月以上の「D0059 血液形態・機能検査ヘモグロビンA1c」の算定があった患者数
DM-03	外来糖尿病患者に対する腎症管理率	分子	分母のうち、「血清クレアチニンと尿中アルブミン」または「血清クレアチニンと尿蛋白」を測定した患者数
		分母	糖尿病の外来患者数（透析患者を除く）

ID	指標名	定義	
DM-04	糖尿病の治療薬が処方されている 65 歳未満の外来患者に対する HbA1c の最終検査値が 7.0%未満の患者の割合	分子	分母のうち、HbA1c の最終検査値が 7.0%未満の患者数
		分母	過去 1 年間に 90 日以上、糖尿病の治療薬が処方されている 65 歳未満の外来患者数
DM-05	糖尿病の治療薬が処方されている 65 歳以上の外来患者に対する HbA1c の最終検査値が 8.0%未満の患者の割合	分子	分母のうち、HbA1c の最終検査値が 8.0%未満の患者数
		分母	過去 1 年間に 90 日以上、糖尿病の治療薬が処方されている 65 歳以上の外来患者数

【脳卒中（脳梗塞）】

ID	指標名	定義	
ST-01	脳梗塞で入院した患者に対するパスを適用した患者の割合	分子	分母のうち、パス新規適用患者数
		分母	脳梗塞と診断された 18 歳以上の新入院患者数
ST-02	脳卒中患者に対する入院後 2 日以内に抗血小板療法もしくは抗凝固療法を受けた患者の割合	分子	分母のうち、入院後 2 日以内に抗血小板療法もしくは抗凝固療法（ワルファリン、ヘパリンを除く）を施行された患者数
		分母	脳梗塞が一過性脳虚血発作（TIA）と診断された 18 歳以上の入院患者数
ST-03	脳梗塞患者に対する入院後 3 日以内に脳血管リハビリテーション治療が開始された患者の割合	分子	分母のうち、入院後早期（3 日以内）に脳血管リハビリテーション治療を受けた患者数
		分母	脳梗塞と診断された 18 歳以上の入院患者数
ST-04	心房細動を伴う脳卒中患者に対する退院時抗凝固薬の処方割合	分子	分母のうち、退院時に抗凝固薬を処方された患者数
		分母	脳梗塞が一過性脳虚血発作（TIA）と診断され、かつ心房細動と診断された 18 歳以上の入院患者数
ST-05	脳梗塞で入院した患者に対する入退院支援加算を算定した患者の割合	分子	分母のうち、「入退院支援加算 1 または 2」が算定された患者数
		分母	脳梗塞と診断された 18 歳以上の退院患者数

【人工股関節全置換術(THA)または人工骨頭置換術(BHA)】

ID	指標名	定義	
THA-01	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術施行患者に対する術前 1 時間以内の予防的抗菌薬の投与率	分子	分母のうち、手術開始前 1 時間以内に予防的抗菌薬が点滴投与開始された手術件数
		分母	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術の件数
THA-02	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術施行患者に対する肺血栓塞栓症の予防対策実施率	分子	分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策（弾性ストッキングの着用、間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固療法のいずれか、または 2 つ以上）が実施された患者数
		分母	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術を施行した退院患者数
THA-03	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術施行患者に対する術後 4 日以内のリハビリテーション開始率	分子	分母のうち、手術当日から数えて 4 日以内にリハビリテーションが行われた患者数
		分母	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術を施行した退院患者数
THA-04	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術施行患者に対する抗菌薬 3 日以内の中止率	分子	分母のうち、手術当日から数えて 4 日目に抗菌薬を処方していない患者数
		分母	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術を施行した退院患者数
THA-05	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術施行患者に対する術後平均在院日数	分子	分母対象例の術後在院日数（退院日-手術日）の総和
		分母	人工股関節全置換術または人工骨頭置換術を施行した退院患者数

3. 対象となる病院

1テーマあたり10病院を上限とし、3テーマで計30病院を対象とします。具体的なご推薦方法や要件につきましては、「協力病院のご推薦 (P.7)」をご確認ください。

4. ご協力いただくにあたり想定されるメリット

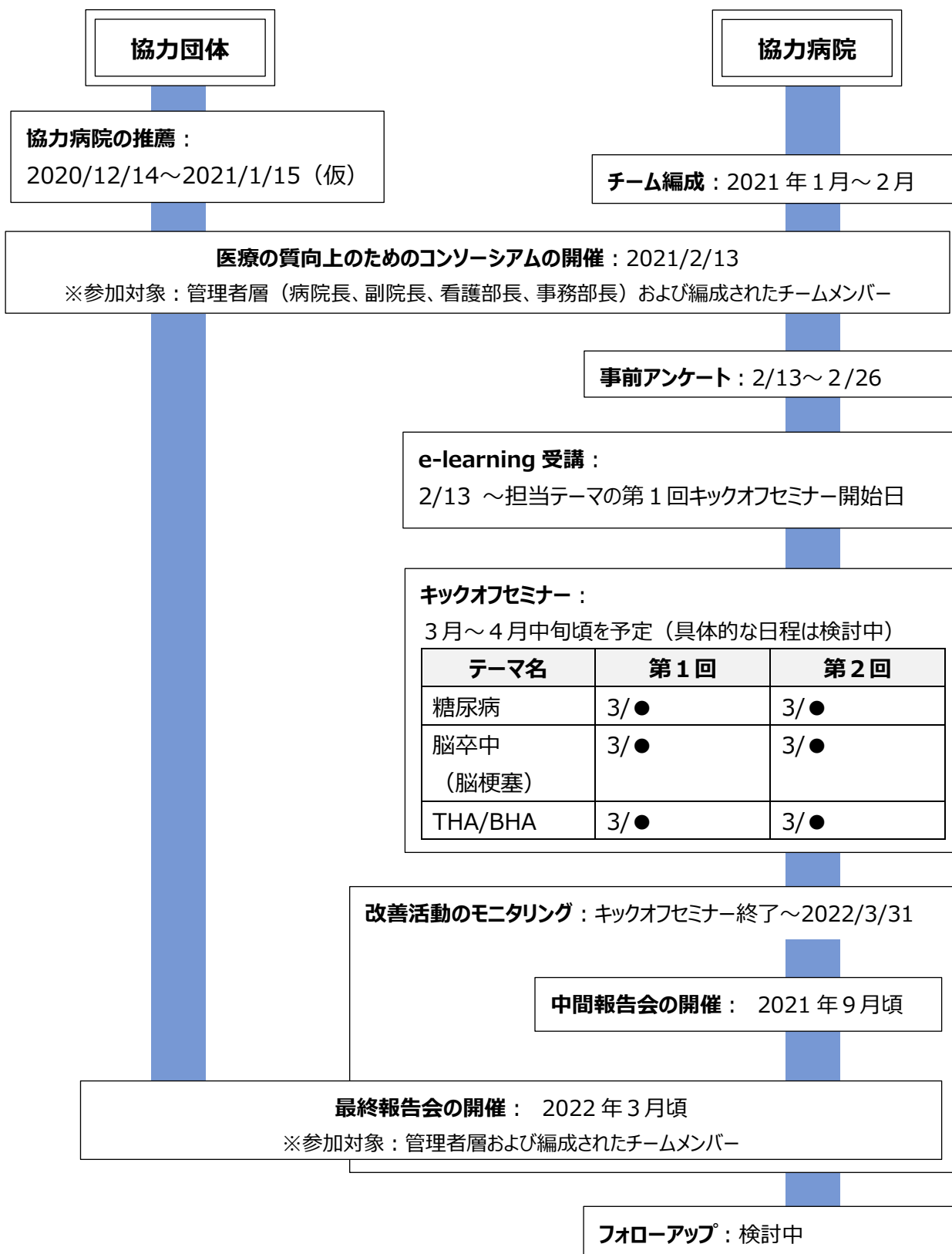
【協力病院】

- ・ 医療の質指標を活用したノウハウを習得することができます。
- ・ 病院間で共に考え協力することで、各病院の組織横断的な取組に繋げることが期待できます。
- ・ 同一テーマの改善活動の実践を通じて質改善における情報交換の場(コミュニティ)に参加できます。

【協力団体】

- ・ パイロットで開発された成果物は関係者間で共有し、各協力団体の質改善に資する事業の充実に寄与することができます。

5. 実施の流れ（約 1 年間）



6. 協力団体様へのご依頼事項

① 協力病院のご推薦【2020/12/14～2021/1/15】

<推薦要件>

以下（ア）から（オ）のすべてに該当する病院のご推薦をお願いいたします。

- （ア） 糖尿病、脳卒中（脳梗塞）、人工股関節置換術(THA) または人工骨頭置換術(BHA) のいずれかが日常的な診療・ケアに含まれる病院
- （イ） 医療の質指標を活用した質改善活動に関心がある病院
例えば、質改善活動の実績がある病院のみならず、「関心はあるがどう行動すればよいかわからない」「過去に取り組もうとしたがうまくいかなかった」という病院
- （ウ） パイロットへの参加を通じて、質改善活動の実践・報告等にご協力いただける病院
定期的にパイロット適用指標の計測結果を事務局にご提出いただく予定です。いただいたデータは、他の協力病院にも共有しますので予めご了承ください。
- （エ） インターネット環境があり、Zoom等のオンラインツールを利用したコミュニケーションやデータのやり取りが可能な病院
パイロット実施中、Zoom等のオンラインツールを利用したサポートを想定しています。
- （オ） パイロットに関する説明会や最終報告会に、管理者層（病院長、副院長、看護部長、事務部長など）の参加が可能である病院
管理者層の方々のご理解やご協力により、自院の自主的かつ継続的な質改善活動がより円滑に促進されることが期待されますので、パイロットに携わるチームのメンバーとともに積極的にご参加いただけますと幸いです。

～QI活用支援部会 尾藤誠司部会長からのメッセージ～

本パイロットを通じて継続的な質の改善状況を可視化したいと考えております。可能であれば、すでに十分に高い質を保持している病院様のみならず、本事業に参入することで、現状よりも質の改善がさらに見込まれる病院様にも本事業にご参画いただけますと大変幸甚でございます。

<推薦にあたって>

以下、（ア）から（ウ）についてご対応をお願いいたします。

- （ア） 糖尿病、脳卒中（脳梗塞）、人工股関節置換術(THA) または人工骨頭置換術(BHA) のテーマごとに1病院をご推薦ください（計3病院/協力団体）。
※各テーマあたり10病院を上限としております（合計30病院/3テーマ）。なお、5病院に満たないテーマが発生した場合、当該テーマのパイロットは中止を検討する場合があります。あらかじめご了承ください。

- (イ) 推薦される病院については、病院様のご了解のもと、貴団体内ご協議の上、ご決定ください。
- (ウ) ご推薦いただく病院の「病院名」、「選択するテーマ」、「連絡窓口となる方の部署・役職・氏名・連絡先（電話番号・メールアドレス）」を事務局までお知らせください。

② 医療の質向上のためのコンソーシアムへのご参加【2/13】

本事業では、全国の医療機関が医療の質向上を目的に参加可能とする『医療の質向上のためのコンソーシアム』を構築しています。具体的には本事業が実施する研修会や質改善プログラムへの参加等を通じて、参加した医療機関や関係者同士で医療の質向上に積極的に取り組み、事例や経験を共有することを目的としています。

2月13日（土）に開催する「2020年度医療の質向上のためのコンソーシアム」では、本事業概要や関係者による講演と併せて、パイロットの概要を説明する予定です。協力団体様にもぜひご参加をお願いしたく存じます。なお、当日はオンライン配信になります。また、後日アーカイブでの配信も予定しております。

③ 最終報告会【2022年3月頃】

協力病院における質改善活動の締めくくりとして、2022年3月頃に実施する予定です。報告会では、各病院における1年間の活動成果の共有、キックオフセミナーの講師陣による講評（組織全体に改善活動を展開させるためのポイント解説を含む）などを予定しております。協力団体様にもぜひご参加をお願いしたく存じます（詳細は、別途ご案内申し上げます）。

7. 費用

ただし、医療の質改善活動を実施するうえで発生する諸費用（人件費、設備費、通信費等）については、協力病院のご負担となりますことご理解、ご了承ください。

8. その他

- ・ 本事業で収集した個人情報については、当機構のプライバシーポリシー（https://jcqhc.or.jp/terms_and_conditions/privacy_policy）に則り適切に管理いたします。
- ・ パイロット運営に際し、協力団体事務局の皆様からのご支援を賜りたく、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

以上

医療の質向上のための体制整備事業 委員および部会員一覧

(50音順、敬称略、◎は委員長または部会長)

●運営委員会

	所属	役職	委員名
	独立行政法人地域医療機能推進機構	理事	石川 直子
	独立行政法人国立病院機構	審議役	岡田 千春
	医療法人北海道家庭医療学センター	理事長	草場 鉄周
◎	独立行政法人国立病院機構	理事長	楠岡 英雄
	キャンサー・ソリューションズ株式会社	代表取締役社長	桜井 なおみ
	独立行政法人労働者健康安全機構	理事	佐藤 朗
	公益社団法人 全日本病院協会	常任理事	永井 庸次
	公益社団法人日本医師会	常任理事	橋本 省
	公益社団法人全国自治体病院協議会	副会長	原 義人
	一般社団法人日本病院会	常任理事	福井 次矢
	社会福祉法人恩賜財団済生会	理事	松原 了
	全日本民主医療機関連合会	理事	松原 為人
	一般社団法人 日本慢性期医療協会	副会長	矢野 諭
	日本赤十字社 医療事業推進本部	統括副本部長	矢野 真
	公益社団法人 日本看護協会	常任理事	吉川 久美子
	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	教授	堀田 聰子
	慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室	教授	宮田 裕章
	ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社	代表取締役	渡辺 昇

●QI 活用支援部会

	所属	役職	委員名
	学校法人北里研究所 北里大学病院 医療支援部 診療情報管理室	課長	荒井 康夫
	京都府立医科大学 大学院医学研究科 医学・医療情報管理学	教授	猪飼 宏
	山形市立病院済生館 呼吸器内科	科長	岩淵 勝好
◎	国立病院機構 東京医療センター 臨床研修科	医長	尾藤 誠司
	掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター	企業長兼院長	宮地 正彦
	聖マリアンナ医科大学 予防医学教室	助教	本橋 隆子
	ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社	代表取締役	渡辺 昇

●QI 標準化部会

	所属	役職	委員名
	東京慈恵会医科大学 臨床疫学研究部	講師	青木 拓也
	九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座	教授	鴨打 正浩
	京都大学大学院 医学研究科 社会医学系専攻 医療経済学分野	准教授	國澤 進
	公益社団法人 日本看護協会 医療政策部 看護情報課	専門職	鈴木 理恵
	産業医科大学病院 医療情報部	部長	林田 賢史
◎	昭和大学大学院 保健医療学研究科	講師	的場 匡亮
	一般社団法人 日本慢性期医療協会	副会長	矢野 諭
	慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	教授	堀田 聰子
	慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室	教授	宮田 裕章

＜問い合わせ先＞

公益財団法人日本医療機能評価機構

医療の質向上のための体制整備事業 事務局

TEL 03-5217-2326 FAX 03-5217-2331

mail: info-qiconf@jcqhc.or.jp